

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [35168] 非結核性抗酸菌薬剤感受性検査 (SGM)
- [12289] 迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査 (RGM)

※本検査のご依頼には、事前の院内セット登録が必要になります。  
検査をご検討の際は、あらかじめ営業担当者にお問い合わせください。

#### 受託開始日

- 2023年6月1日(木)



## 非結核性抗酸菌薬剤感受性検査 (SGM)、迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査 (RGM)

非結核性抗酸菌は発育の速さによって、遅発育抗酸菌 (slowly growing mycobacteria : SGM) と迅速発育抗酸菌 (rapidly growing mycobacteria : RGM) に二分されます。SGMには非結核性抗酸菌種で検出頻度が高いMAC (*Mycobacterium avium*と*M. intracellulare*)、*M. kansasii*などが含まれます。RGMはほぼ環境菌ですが、ヒトに対する病原性を持つ菌として*M. abscessus*、*M. fortuitum*、*M. chelonae*が知られています。なかでも*M. abscessus*は増加傾向にあり、MAC、*M. kansasii*に次ぐ感染が報告されています。

非結核性抗酸菌症は多剤併用化学療法による長期間の治療を必要とするため、適切な薬剤選択が重要です。非結核性抗酸菌薬剤感受性検査 (SGM) ならびに迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査 (RGM) はCLSIのカテゴリー判定基準に準拠して「感受性・耐性」をご報告します。

### 検査要項

項目コード	35168	12289
検査項目名	非結核性抗酸菌薬剤感受性検査 (SGM) * <sup>1</sup>	迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査 (RGM) * <sup>2</sup>
検査材料/保存方法	呼吸器系材料 / その他 / 冷蔵 (凍結不可) または 菌株 / 常温 * <sup>3</sup>	
検査方法	液体培地希釈法	
実施薬剤 * <sup>4</sup>	KM (カナマイシン) AMK (アミカシン) CAM (クラリスロマイシン) AZM (アジスロマイシン) MINO (ミノサイクリン) DOXY (ドキシサイクリン) MFLX (モキシフロキサシン) STFX (シタフロキサシン) LZD (リネゾリド) RBT (リファブチン) RFP (リファンピシン) EB (エタンプトール) INH (イソニアジド) TH (エチオナミド)	FRPM (ファロペネム) IPM (イミペネム) MEPM (メロベネム) AMK (アミカシン) TOB (トブラマイシン) CAM (クラリスロマイシン) AZM (アジスロマイシン) DOXY (ドキシサイクリン) LVFX (レボフロキサシン) MFLX (モキシフロキサシン) STFX (シタフロキサシン) LZD (リネゾリド) CLF (クロファジミン) ST (スルファメトキサゾール・トリメトプリム)
実施薬剤数	14	14
報告様式	最小発育阻止濃度MIC値 (単位: $\mu\text{g/mL}$ ) をご報告します。CLSI判定基準のある薬剤はS,I,Rも併せてご報告します。MACの場合は、AMKとAMK (吸入) の2種をご報告します。	最小発育阻止濃度MIC値 (単位: $\mu\text{g/mL}$ ) をご報告します。CLSI判定基準のある薬剤はS,I,Rも併せてご報告します。
所要日数 * <sup>5,6</sup>	8~11日	15~18日
検査実施料/判断料	400点 (「D022」抗酸菌薬剤感受性検査 (培地数に関係なく)) / 150点 (微生物学的検査判断料)	
備考	* <sup>1</sup> : 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の遅発育菌です。 * <sup>2</sup> : 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の迅速発育菌です。 * <sup>3</sup> : 菌株の場合は、所定の保護ケースをご利用の上、常温保存にてご提出ください (保護ケースは、あらかじめ営業担当者にお申し付けください)。 * <sup>4</sup> : 実施薬剤の選択はできません。 * <sup>5</sup> : 所要日数は、薬剤感受性検査に入ってからの日数です (分離培養および前培養 (増菌培養) 日数は含まれません)。 * <sup>6</sup> : 5週を越えて培養した培地上の菌株の場合、新鮮な培養菌を得るために、株を新たに起こし直す期間が必要になります。	

### 参考文献

青野昭男, 他: 日本臨床微生物学会雑誌 31 (2): 19-25, 2021.

## 報告様式

### ● 非結核性抗酸菌薬剤感受性検査 (SGM)

薬剤 \ 菌種	MAC ( <i>M. avium</i> / <i>M. intracellulare</i> )	<i>M. kansasii</i>	MAC, <i>M. kansasii</i> 以外
KM (カナマイシン)			
AMK (アミカシン)	●	●	●
AMK吸入	● <sup>*</sup>	-	-
CAM (クラリスロマイシン)	●	●	●
AZM (アジスロマイシン)			
MINO (ミノサイクリン)		●	●
DOXY (ドキシサイクリン)		●	●
MFLX (モキシフロキサシン)	●	●	●
STFX (シタフロキサシン)			
LZD (リネゾリド)	●	●	●
RBT (リファブチン)		●	●
RFP (リファンピシン)		●	●
EB (エタンブトール)			
INH (イソニアジド)			
TH (エチオナミド)			

※MACの場合は、AMKとAMK (吸入) の2種をご報告します。

### ● 迅速発育抗酸菌薬剤感受性検査 (RGM)

薬剤 \ 菌種	迅速発育抗酸菌
FRPM (ファロペネム)	
IPM (イミペネム)	●
MEPM (メロペネム)	●
AMK (アミカシン)	●
TOB (トブラマイシン)	●
CAM (クラリスロマイシン)	●
AZM (アジスロマイシン)	
DOXY (ドキシサイクリン)	●
LVFX (レボフロキサシン)	●
MFLX (モキシフロキサシン)	●
STFX (シタフロキサシン)	
LZD (リネゾリド)	●
CLF (クロファジミン)	
ST (スルファメトキサゾール・トリメトプリム)	●

●：最小発育阻止濃度MIC値 (単位:  $\mu\text{g}/\text{mL}$ ) およびS,I,Rをご報告します。  
 表中に記号のない薬剤は、MIC値のみをご報告します。